

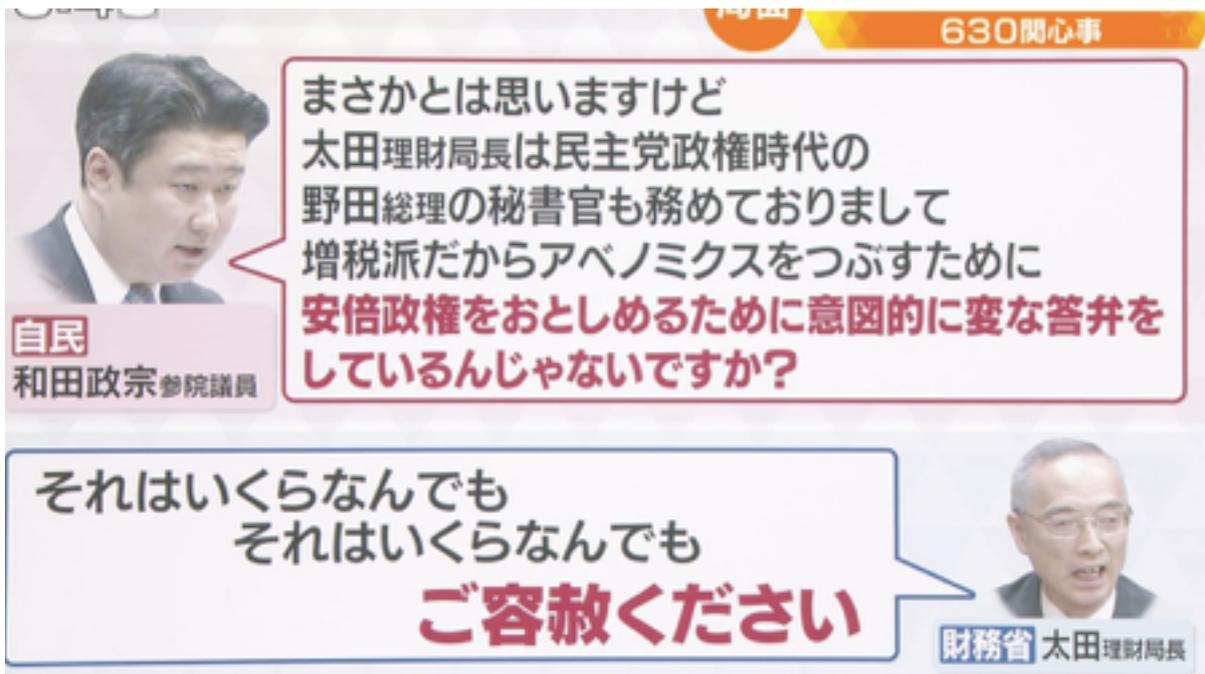


## けんきょうふかい 牽強 付会

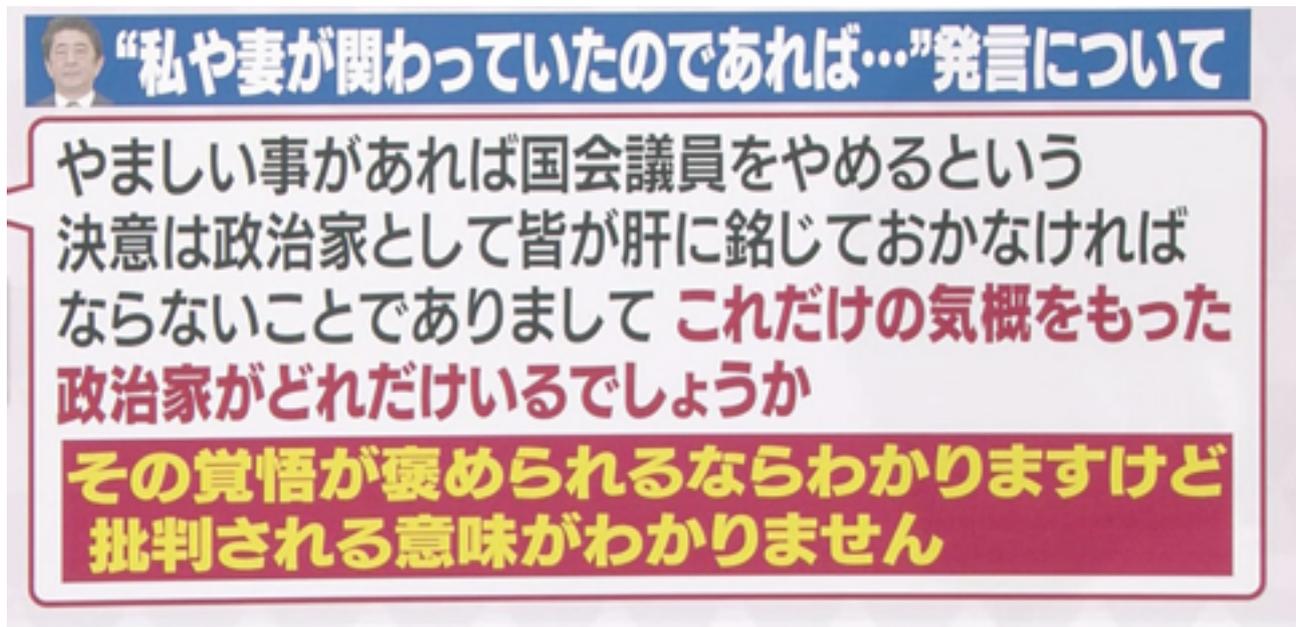
3月19日、初めて7時間に及ぶ国会討論をNHKの番組から見ました。正午の休憩時間にある民放の解説者が午前の討論の解説をする中で「牽強付会」という難しい言葉を用いた説明がありましたが、今回の問題を通して政治家と官僚の関係や組織の責任の取り方等を鮮明に学ぶことができました。既に報道でも有名になっているやり取りで会議録からは削除されたようですが、ここに諸々の報道を纏めてこの問題の成り行きを注視したいと思います。牽強付会の意味は「自分の都合のよいように無理に理屈をこじつけること」

### 「ご容赦ください」事件

私がつけた名前です。内容は有名な事件ですから前後関係を省略して本題を論じた報道のテロップを掲げます



この議員は昨年2月17日の衆院予算委で「私や妻が関与していたら総理大臣も議員も辞める」と語った首相発言を賛美した人としても有名です。



**“私や妻が関わっていたのであれば…”発言について**

やましい事があれば国会議員をやめるという  
決意は政治家として皆が肝に銘じておかなければ  
ならないことでありまして **これだけの気概をもった  
政治家がどれだけいるでしょうか**

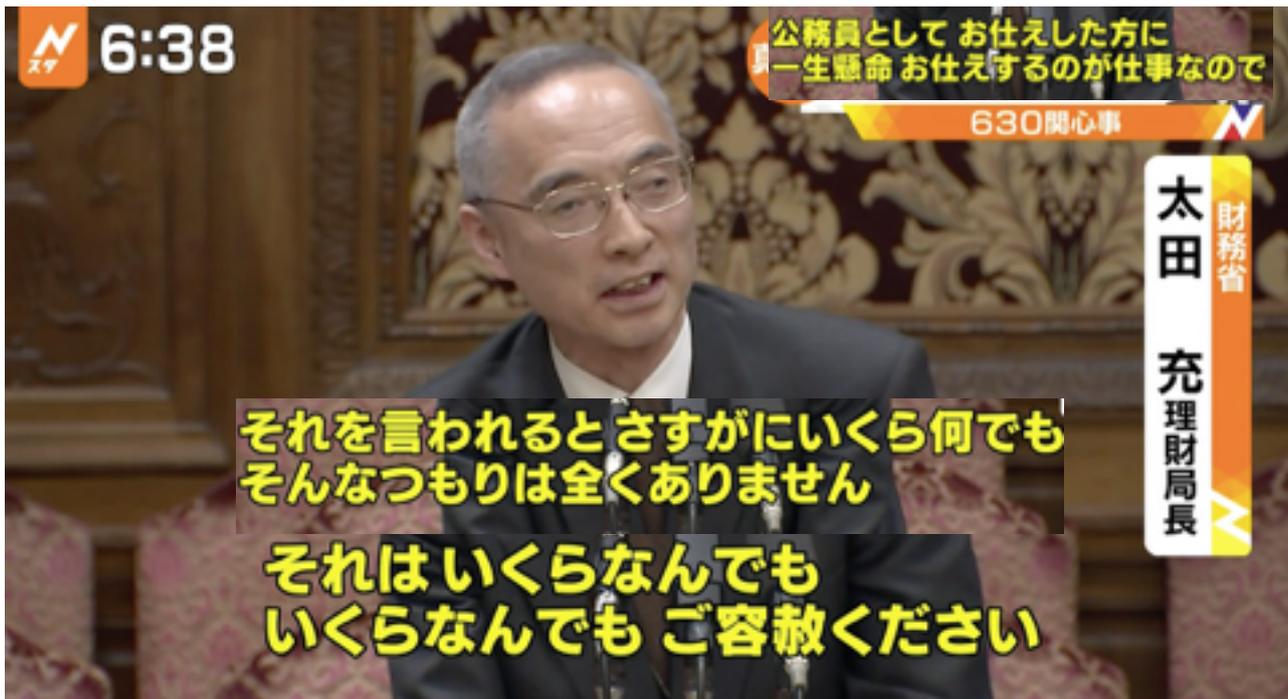
**その覚悟が褒められるならわかりますけど  
批判される意味がわかりません**

政治評論家の森田実さんは自民党議員の質問について「報道各社の世論調査で内閣支持率が低下する中、与党として国民の厳しい視線に向き合わなければならないのに、問題の本質を突くような質問は一切なく、内閣を守るためだけの時間つぶしだった」と批判。「文書改ざんに政治がどう関わり、なぜ起こったのかを追及せず、財務省に押しつけて政治責任にふたをした。国民に対する裏切りの行為だ」と断じた。

私には論評する力はありませんが太田理財局長の応答に現代の政治家と官僚の関係を学びました。太田理財局長は「私は公務員として一生懸命お仕えするのが仕事」と反論し、「それを言われるとさすがにいくら何でも、そんなつもりは全くありません」「それはいくら何でも、それはいくら何でもご容赦ください」と顔を赤らめ、首を何度も横に振る場面がありましたが、何故「ご容赦ください」で終わったのか。

激しい怒りを感じながらそれを容赦という言葉に置き換えるのが優秀な頭脳を持つ官僚の仕事なのか。太田理財局長は午後の質問にもしばしば苦境に立たされながら自らの人格を抹消しているかのような発言が続いたように私には見受けられましたこの質問は当日の議題からかけ離れた質問であり、なぜ、ここで、こんな質問がなされるのか。こんな質問が許されるのか。テレビの前で首をかしげました。

議長の役割が何であるか。午後の小池議員の質疑の時に安倍首相が時間稼ぎのような長い答弁をして、小池議員が議長に「時間稼ぎ」ではないかと詰め寄る場面もありましたが、絶対多数の与党国会では独裁が大手をふるって歩いているようです



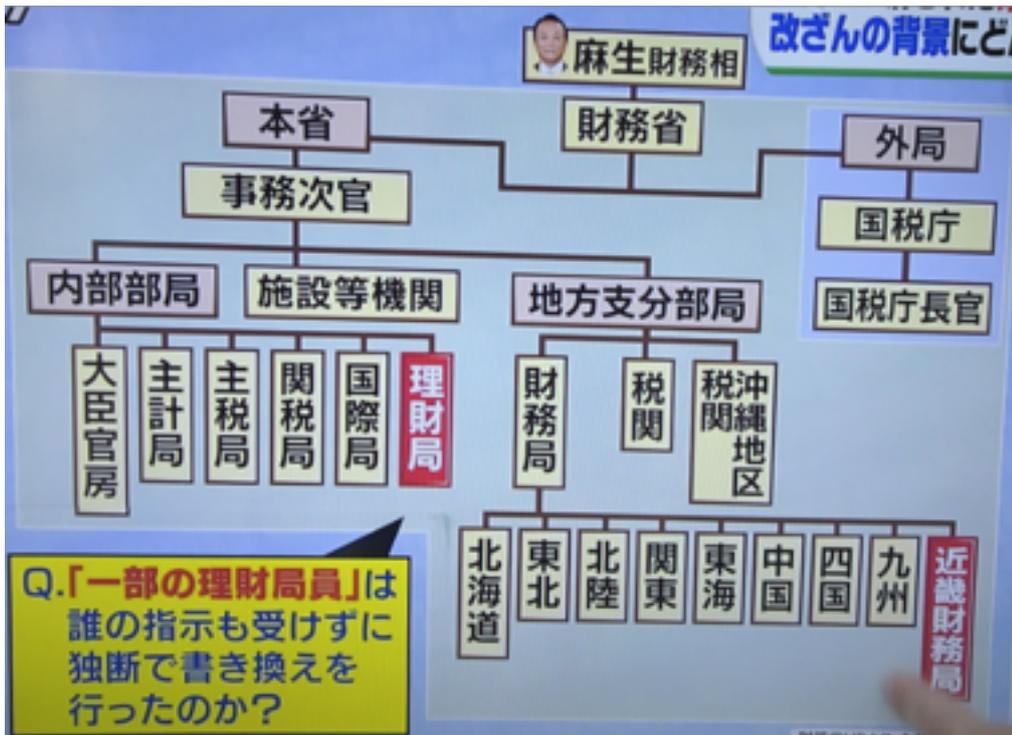
想定外の質問に答えなかった太田さんが、精一杯の力で発言した言葉。その場にいた人しか理解できない言葉です。



公務員は政治家が国会答弁のためのシナリオや想定問答集を作っていることがよく分かる記事がありましたので掲載します。

漢字にはルビが付されており大臣が間違わないように配慮されている。配慮が忖度から出ているのか？

この写真は「週間文春2018/03/29号」から引用。顔の部分はカットしました。



あとがき

時事問題は「ニュース」ですから直ぐに古くなってしまいます。とりあげることは最小原にしています。当該事案は議事録から削除されることになっています。牽強付会の事例としては典型的とも言えると思います。財務省の組織図が報道されて大臣との力関係を学ぶことができました。

右の写真は「週間新潮2018/03/29号」から引用しました。

